

# 事業評価シート

番号 0660040 - 001

## 【1.基本情報】

事業名	鵜飼事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	昭和2 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市観覧船に関する条例	

## 【2.事業概要】

事業の目的	全国から観光客を誘客し、鵜飼観覧船に乗船してもらうことにより観光産業の活性化及び経済波及効果を上げる。				
事業の内容	鵜飼観覧船事業を行い、全国から観光客を誘客する。 鵜飼は、毎年5月11日から10月15日まで鵜飼休みの日を除き毎夜行われ、鵜飼観覧船を運航する。				
事業の対象	何を	鵜飼観覧			
	誰に (対象者・対象者数)	観光客及び市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	5月11日～10月15日(鵜飼休みの日及び増水による中止の日を除く)			
令和元年度 (実施内容)	テレビや雑誌等報道関係者による取材の乗船料を貸切船は半額、乗合船は引き続き無料にし、メディア露出を増やすことにより全国及び海外からの観光客の誘客に努め、世界に向けた情報発信力の向上を図った。				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	50,768	1,670	52,939	1,670	61,064	1,796
嘱託職員	2,652	260	2,678	260	1,339	130
アルバイト	2,825	642	2,930	637	2,728	593
<b>計(A)</b>	<b>56,245</b>	<b>2,572</b>	<b>58,547</b>	<b>2,567</b>	<b>65,131</b>	<b>2,519</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		430,327	386,996	451,690
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	賃金	180,529	155,558	205,562
	報償費	175,504	159,578	172,918
	委託料	27,381	36,425	33,822
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
		5,072	5,072	5,072
<b>計(D)=B+C</b>		<b>435,399</b>	<b>392,068</b>	<b>456,762</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	491,644	450,615	521,893

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	301,932	206,954	250,673
その他	560	729	2,977
<b>計(F)</b>	<b>302,492</b>	<b>207,683</b>	<b>253,650</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	189,152	242,932	268,243

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	110,412	76,330	91,178
受益者負担額(千円)	300,623	206,781	249,398
受益者負担率(%)	61.1%	45.9%	47.8%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,713	3,183	2,942

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	鵜飼開催日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	157	157	157
実績値	151	115	147

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	鵜飼観覧船乗船者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	115,000	115,000	115,000
実績値	110,412	76,330	91,178

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	長良川鵜飼は日本の宝であり世界に誇るべき伝統文化である。この事業を通じて、市民にとってかけがえのない文化を守り続けてきている。  収益事業であるが、伝統文化継承という点から、民間が実施することは慎重な検討が必要となる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	「鵜飼事業のあり方検討委員会(諮問機関)」の答申において、雇用も含め、約20億円の経済波及効果があるとされ、未来永劫継続していくべきものとされている。  伝統文化継承に配慮しながら、多様な運営主体について検討する必要がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	年間約11万人が観覧する本市の基幹的な観光資源であり、雇用、宿泊などの消費への波及効果は大きい。また、鵜飼漁の技術は、国重要無形民俗文化財に指定されるなど、世界遺産登録に向けても観覧船事業の重要性は高い。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	観光客や地域観光事業者など鵜飼観覧船事業における受益者負担のあり方を検討する必要がある。令和元年度はテレビや雑誌等報道関係者による取材の貸切船乗船料を全額減免から半額減免に見直すなど規定を見直して運用した。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善	鵜匠、船頭の後継者育成なども含め、鵜飼観覧船事業を持続可能な形態へシフトすることが不可欠である。

# 事業評価シート

番号 0660040 - 002

## 【1.基本情報】

事業名	船員互助会助成金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会
実施期間	平成9 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市観覧船に関する条例	

## 【2.事業概要】

事業の目的	船員福利厚生事業の実施				
事業の内容	船員互助会に対して助成を行った。				
事業の対象	何を	助成金			
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会			
	どのくらい (具体的 数値で)	船員互助会の令和元年度会費の4分の1を助成。ただし岐阜市予算額以内とする。(25万円)			
令和元年度 (実施内容)	船員互助会の令和元年度会費の4分の1を助成した。				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	0		63	2	68	2
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	0	0	63	2	68	2

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
			210	220
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	賃金		210	220
	報償費			
	委託料			
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		0	210	220

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	0	273	288

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	0	273	288

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	－	船員互助会会員	船員互助会会員
受益者数	－	84	88
受益者負担額(千円)	－	840	880
受益者負担率(%)	－	307.2%	305.6%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	－	3,255	3,273

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	助成金額		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	－	225	225
実績値	－	210	220

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	鵜飼観覧船乗船者数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	－	90	90
実績値	－	84	88

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	地方公務員法第42条の規定に基づき実施しており必要である。 岐阜市鵜飼観覧船船員は地方公務員法第22条第5項の規定に基づき市で雇用しており市が助成を行うもの。令和2年度からは会計年度任用職員となった。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	船員互助会の会費の4分の1としており、岐阜市互助会における会費は、給料月額1,000分の4、助成金が給料月額1,000分の1であり、会費に対して助成金の割合は4分の1であり、妥当である。 船員互助会が最も船員のことを把握しており、ここに助成を行うことが効率的である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	岐阜市鵜飼観覧船船員互助会助成金事業報告書において各種事業が実施されており有効であった。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	船員互助会の会費の4分の1としており、岐阜市互助会における会費は、給料月額1,000分の4、助成金が給料月額1,000分の1であり、会費に対して助成金の割合は4分の1であり、妥当である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	船員不足の状況下で、年間10万人の乗船客が見込まれる観覧船事業を支えるために市が助成しているもの。今後も助成を行っていく。

# 事業評価シート

番号 0660040 - 003

## 【1.基本情報】

事業名	船員組合補助金				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	長良川鵜飼観覧船船員組合
実施期間	平成9 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市観光事業補助金交付要綱第3条	

## 【2.事業概要】

事業の目的	船員の資質向上となる研修事業の実施	
事業の内容	船員の資質向上に資する研修事業を行う船員組合に補助した。	
事業の対象	何を	補助金
	誰に (対象者・対象者数)	長良川鵜飼観覧船船員組合
	どのくらい (具体的 数値で)	岐阜市観光事業補助金交付要綱第3条により、交付対象事業の実施に要する経費の2分の1以内
令和元年度 (実施内容)	船員独自の研修の補助対象事業に対して要綱に定める補助を実施した。	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	159	5	63	2	68	2
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>159</b>	<b>5</b>	<b>63</b>	<b>2</b>	<b>68</b>	<b>2</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		567	439	500
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	567	439	500
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>567</b>	<b>439</b>	<b>500</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	726	502	568

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	726	502	568

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	鵜飼観覧船船員互助会会員数	鵜飼観覧船船員互助会会員数	船員組合研修参加者数
受益者数	83	23	30
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	8,741	21,843	18,933

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	補助金額	単位	千円
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	750	500	500
実績値	567	439	500

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	視察研修の回数	単位	回
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	1

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	満足度の高い鵜飼観覧船の乗船環境を提供するためには、安全運航が必要不可欠であり、多様化する観覧者のニーズに対応する船員の資質向上は必要である。  市の観光に資する観点から、事業主体である市が行うもの。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	事業費の1/2の補助であり、他のメニューと比較し妥当である。  満足度の高い鵜飼観覧船の乗船環境を提供するためには、安全運航が必要不可欠であり、多様化する観覧者のニーズに対応する船員の資質向上は必要である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	視察研修会を1回実施し、資質向上が図られた。研修では、他施設において実地研修を実施した。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	船員不足の状況下で、年間10万人の乗船客が見込まれる観覧船事業を支えるために市が助成しているもの。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	資質向上のための自主的な取り組みに対して、今後も補助を行っていく。

# 事業評価シート

番号 0660040 - 004

## 【1.基本情報】

事業名	観覧船建造事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成10年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	古く傷みの激しい船を廃船し、ニーズに合った船に切り替えて安全運航に努める。 また、船のイメージアップを図り、多くの観光客の誘客を図る。				
事業の内容	安全かつ質の高い鵜飼観覧を実施するため、老朽化した船の廃船及び観覧船乗船客のニーズに合った新造船の建造を計画的に行う。 観覧船の建造過程を自由に見学できるようにし、まちなか歩きの推進に寄与する。 鵜飼観覧船造船技術の継承				
事業の対象	何を	鵜飼観覧船			
	誰に (対象者・対象者数)	観光客及び市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	年1隻			
令和元年度 (実施内容)	30人乗り観覧船「光秀丸」1隻(5月進水)				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	159	5	159	5	170	5
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	159	5	159	5	170	5

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	原材料費	4,460	5,122	4,855
	賃金	12,033	9,327	9,180
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		16,493	14,449	14,035

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	16,652	14,608	14,205

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	16,652	14,608	14,205

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	110,412	76,330	91,178
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	151	191	156

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	新造船の建造		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1	1	1
実績値	1	1	1

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	鵜飼観覧船乗船者数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	115,000	115,000	115,000
実績値	110,412	76,330	91,178

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	鵜飼事業に必要な不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは必要である。  本市の中心的な観光資源である鵜飼と一体であり、技術者を保護し、後継者を育成しながら、貴重な和船の製造技術を継承する必要があり市が実施すべきである。過去から本市の事業であり、国や県が実施することは、無理と思われる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	仕入れた原材料から建造することで低廉に建造している。  本市の中心的な観光資源である鵜飼と一体であり、技術者を保護し、後継者を育成しながら、貴重な和船の製造技術を継承する必要があり市が実施すべきである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	年度中に1隻の船が完成した。造船所の見学者も5,158人あり、滞在時間の延長にも寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	鵜飼事業に必要な不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは必要であり、適正である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	鵜飼事業に必要な不可欠な観覧船建造事業において、安定的かつ継続して観覧船の建造を行うことは今後も必要である。

# 事業評価シート

番号 0660040 - 005

## 【1.基本情報】

事業名	ウミウ捕獲技術保存協議会				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	加入団体負担金	実施主体	ウミウ捕獲技術保存協議会
実施期間	H16 年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	(H15年の鵜捕り場の崩落を受け、岐阜市長の提案によりH16年に設立され現在に至る。) 鵜飼の伝統文化継承に必要となるウミウの安定供給に貢献すること。 岐阜市の宝である「鵜飼」をウミウの安定供給により支えることで観光に寄与すること。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミウ捕獲技術保存に関すること及びウミウの安定供給に関すること。</li> <li>・鵜飼文化振興のため環境整備に関すること。</li> <li>・ウミウの捕獲から鵜飼実施までにに関する情報交換及び課題の協議。</li> <li>・ウミウ捕獲場に関すること。</li> </ul>	
事業の対象	何を	負担金(加入団体負担金)
	誰に (対象者・対象者数)	ウミウ捕獲技術保存協議会
	どのくらい (具体的数値で)	事業規模は約440万円で日立市(1/2)と有田市を除く11鵜飼開催地(1/2)が拠出する。負担額は、均等割額10万円と羽数割(1/4)の110万円に過去15年間の鵜の供給割合を乗じて算出した額で、R1年度は370,000円。
令和元年度 (実施内容)	令和元年度は笛吹市にて幹事会・総会が開催された。 (R元年7月18日開催)	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	317	10	317	10	340	10
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	317	10	317	10	340	10

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		355	350	370
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	負担金	355	350	370
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		355	350	370

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	672	667	710

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	672	667	710

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	110,412	76,330	91,184
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	6	9	8

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	協議会負担金	単位	千円
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	350	381	370
実績値	350	381	370

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	ウミウ捕獲数(岐阜市分)	単位	羽
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	18	12	12
実績値	18	12	12

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	日立市にあるウミウ捕獲場は、平成23年の東日本大震災で捕獲場に亀裂が入り、崩落の可能性もあるなど、今後のウミウの安定供給のためにも捕獲場の維持は欠かせない。また、ベテランの鶺鴒師が引退するなど、後継者育成も課題となっている。協議会を通し、捕獲場の維持及び後継者の育成に寄与している。 鶺鴒観覧船事業の主体であり、市域の観光振興を図る市が行う事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	負担金は協議会のH4年からの累計捕獲数に単価を乗じる形で算出され、毎年負担金が増加していた。このため、H22年度から算出期間に期限(過去15年間の捕獲総数)を設けることを岐阜市が提案し、増加することに対し歯止めを掛けている。 この協議会のみがウミウ捕獲対策の検討を行っている。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	毎年、ウミウを協議会を通じ鶺鴒に供給 (平成29年度18羽、平成30年度12羽、令和元年度12羽) 毎年、約1回捕獲場の補修のほか、通年管理
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	観光振興の観点で他市においても自治体の負担により実施している。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	岐阜市の宝である「鶺鴒」をウミウの安定供給により支えており、今後も必要である。

# 事業評価シート

番号 0660040 - 006

## 【1.基本情報】

事業名	長良川遊覧船事業				
担当部名	ぎふ魅力づくり推進部	担当課名	鵜飼観覧船事務所		
未来地図政策	観光・交流の活性化		政策コード	3 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成29年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市観覧船に関する条例	

## 【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市に来られた観光客に本市の遊覧船をPRするとともに、国の重要文化的景観に選定された景色を船上から楽しんでいただくことを目的に遊覧船を運航する。	
事業の内容	鵜飼観覧船乗り場を発着とする遊覧船をGW期間に運航する。運航時間は10:00～16:00とし、1時間に1便、1日6便を運航する(最終便15:00出航)。遊覧時間は40分～45分。うち1便は船内で抹茶とお茶菓子を提供するお茶船として運航	
事業の対象	何を	遊覧船
	誰に (対象者・対象者数)	観光客及び市民
	どのくらい (具体的 数値で)	GW期間4月27日～5月6日(R1)
令和元年度 (実施内容)	大型の観覧船を使用し、多数の乗船者が利用された。	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	159	5	159	5	170	5
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>159</b>	<b>5</b>	<b>159</b>	<b>5</b>	<b>170</b>	<b>5</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		491	522	675
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	賃金	214	201	343
	報償費	180	149	150
	印刷製本費	92	69	69
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>491</b>	<b>522</b>	<b>675</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	650	681	845

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	298	405	601
その他			
<b>計(F)</b>	<b>298</b>	<b>405</b>	<b>601</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	352	276	244

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	観光客及び市民	観光客及び市民	観光客及び市民
受益者数	541	946	1,460
受益者負担額(千円)	298	405	601
受益者負担率(%)	45.9%	59.5%	71.1%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	650	291	167

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	開催日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	9	9	10
実績値	9	8	10

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	観覧船乗船者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	540	1,260	1,700
実績値	541	946	1,460

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	多数の方に利用していただき、本市の観覧船をPRすることが出来た。  本体部分の鵜飼事業を市が行っており、この事業のみを民間が実施することは難しい。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	募集定員1,700人に対して、幼児も含めて1,460人の参加があった。多数の乗船者があり効果的である。  長良川周遊航路における定期航路事業の許可を市として受けており、観覧船のPRも十分行いうことが出来ており直営が適当である。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	受益者である乗船者に必要な負担を求めている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	観光振興の観点で他市においても自治体の負担により実施している。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	改善	本市の遊覧船を十分PRすることが出来て、景色を船上から楽しんでいただくことが出来た。目標を十分達成出来ている。 今後も事業全体の収支改善を図る。